

- 問1 北海道の自然環境と産業に関連して、網走市や知床半島の沿岸で見られる冬季の自然現象と、その海域の特徴について説明した文として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2025年 群馬県公立入試 類似)
1. 太平洋に面しており、親潮（千島海流）の影響で一年中流水が漂い、大規模な稲作が行われている。
 2. 日本海に面しており、暖流の影響で冬も海水温が高いため、流水が接岸することはない。
 3. オホーツク海に面しており、冬に押し寄せる流水がプランクトンを運ぶため、豊かな漁場が形成される。
 4. オホーツク海に面しており、夏になると南東からの湿った季節風によって流水が再び発生する。
- 問2 北海道の知床（斜里町など）では、1980年の知床横断道路の開通などをきっかけに、1990年代には観光客数が180万人に達するほど急増しました。これにともなう環境の変化と、その対策として行われた取り組みの説明として最も適切なものはどれですか。 (2022年 栃木県公立入試 類似)
1. 1990年代の急激な観光客増加に対応するため、自然保護よりも利便性を優先し、知床半島の奥地まで自由に自動車で移動できる制度を強化した。
 2. 観光客の増加によって自然環境が損なわれることが懸念されたため、1999年から自動車の乗り入れ規制を開始し、保全と観光の両立を目指すエコツーリズムのガイドラインを策定した。
 3. 世界自然遺産への登録を維持するために、2007年以降は一切の観光利用を禁止し、研究者以外の立ち入りを厳格に制限する方針に転換した。
 4. 観光客が減少したことで地域経済が衰退したため、2005年に世界自然遺産に登録されたことを機に、新たな大型道路を建設して観光客の呼び戻しを図った。
- 問3 1960年から2010年までの50年間で、札幌市の人口は約62万人から約191万人へと3倍以上に急増しました。北海道全体の人口が1950年の約430万人から2010年の約551万人へと緩やかな推移を見せる中で、このような札幌市の人口動態が北海道全体に与えている状況として最も適切なものはどれですか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 道内人口に占める札幌市の割合が一貫して上昇し、札幌市への一極集中が進んでいる。
 2. 札幌市の人口増加率よりも北海道全体の人口増加率の方が高く、人口の分散が起きている。
 3. 北海道全体の人口が減少局面に入ったことで、札幌市の人口も2010年に向けて激減した。
 4. 道内の各都市が札幌市と同様のペースで成長したため、札幌市の人口占有率は低下している。
- 問4 北海道の都市に見られる歴史的な遺産について述べた文として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。 (2021年 鳥取県公立入試 類似)
1. 小樽には、アイヌの人々と交易を行うための拠点として、江戸時代に松前藩によって奉行所が置かれた。
 2. 函館には、北前船の寄港地として栄えた当時の面影を残す石造りの倉庫群が運河沿いに並んでいる。
 3. 函館には、戊辰戦争の最後の舞台となった、西洋式城郭の技術を用いた五稜郭が残されている。
 4. 小樽には、明治時代以降の開拓の拠点として、赤レンガ造りの北海道庁旧本庁舎が建てられた。
- 問5 日本の乳牛飼育において、飲用として出荷される牛乳の生産地が、千葉県、神奈川県、愛知県といった大都市の周辺に多く見られる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
1. 大都市の周辺は北海道に比べて土地代が安く、乳牛を放牧するための広大な土地を確保しやすい環境にある。
 2. 法律によって、飲用牛乳は消費地と同じ地方自治体の中で生産・処理しなければならないと定められている。
 3. 飲用牛乳は加工品に比べて製品の鮮度を保つことが重視されるため、大消費地に近接した地域で生産されている。
 4. 飲用牛乳は加工用生乳に比べて重量が軽く、輸送コストがほとんどかからないため、あえて都市部で生産されている。
- 問6 北海道の農業は、広大な土地を活かした大規模経営が特徴です。農家一戸あたりの耕地面積が全国平均と比べて極めて大きい背景や、その生産体制に関する説明として正しいものはどれですか。 (2016年 京都府公立入試 類似)
1. 明治時代以降の開拓により一区画の農地が広く設定されたため、大型機械による効率的な生産が進んだ
 2. 山がちで複雑な地形が多いため、小さな耕地を多数の農家で分け合い、人力による丁寧な管理が行われている
 3. 農業産出額を増やすために、狭い土地に多くの肥料や労働力を投入する集約的な農業が発達した
 4. 冷害を避けるために、ビニールハウスなどの施設を小規模な土地に密集させて栽培する方法が普及した
- 問7 北海道の地形や都市の配置について説明した次の文章のうち、地理的状況を正しく説明しているものはどれですか。 (2016年 京都府公立入試 類似)
1. 道南の志苔館跡や洞爺湖がある地域は、主にオホーツク海の影響を強く受けている。
 2. 日本海に面した網走市では、冬にカリブ海から流れてくる流水を観察することができる。
 3. 道北の稚内市から海岸線沿いに南東方向へ進むと、オホーツク海に面した網走市に到達する。
 4. 内陸盆地に位置する旭川市から西へ進むと、オホーツク海に面した小樽市の港が見える。
- 問8 世界遺産に登録されている知床では、多くの観光客が訪れる一方で、自然環境を破壊しないための対策が取られています。湿原や高山植物が広がるエリアに「木道」が設置されている主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 千葉県公立入試 類似)
1. 周辺の森林から切り出された木材の輸送を効率化し、地元の林業を活性化させるため
 2. 観光客が地面を直接踏み固めて、貴重な植物の成長を妨げないようにするため
 3. 大雨が降った際に地面の侵食を防ぎ、土砂が海へ流出するのを食い止めるため
 4. ヒグマなどの野生動物が、人間の歩行ルートに侵入できないように物理的に遮断するため
- 問9 1890年代後半から現代にかけての石狩川流域における土地利用の変化について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
1. 市街地を拡大させるため、もともと存在した森林をすべて取り除き、大規模な泥炭地へと造り替えた
 2. かつて広大だった農地が、自然保護の観点から国主導で大規模な湿地へと復元された
 3. 明治時代には流域の大部分を占めていた湿地が、開発とともに減少し、農地や市街地へと変化した
 4. 泥炭地と呼ばれる湿地は、地盤沈下を防ぐ目的から、明治時代と同じ面積が現在も維持されている
- 問10 かつて農業に不向きであった石狩平野の泥炭地を、日本有数の稲作地帯へと変えるために行われた工夫や取り組みについて、正しい説明を選んでください。 (2025年 千葉県公立入試 類似)
1. 大規模な森林伐採を行い、燃やした灰を肥料として土地に混ぜる「焼畑」を繰り返した。
 2. 地力を回復させるために、農地を数年ごとに休ませる「輪作」を導入した。
 3. 高台から水を引くための大規模な「ため池」を建設し、乾燥した土地に水分を供給した。
 4. 他の場所から性質の良い土を運び入れる「客土」や、排水路の整備といった土地改良を行った。
- 問11 日本の諸地域の気候区分において、北海道の札幌市などで見られる、冬の寒さが厳しく1月の平均気温が氷点下になる気候帯の名称として適切なものを次の中から選びなさい。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 熱帯
 2. 温帯
 3. 乾燥帯
 4. 冷帯（亜寒帯）
- 問12 北海道の知床半島のすぐ東側に位置し、択捉島、色丹島、歯舞群島とともに、日本固有の領土でありながら現在はロシアによって法的根拠なく占拠されている島を何というか。 (2019年 岡山県公立入試 類似)
1. 国後島
 2. 択捉島
 3. 歯舞群島
 4. 色丹島